

オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価

久保 沙織, 南 紅玉, 檜田 豪利, 宮本 友弘 (東北大学)

東北大学では昨年まで、高校教員を対象とした入試説明会を全国 21 会場で実施してきた。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために対面での説明会を中止し、オンラインで実施した。本稿では、東北大学オンライン入試説明会の実践報告ならびに実施後の評価について論じる。オンライン入試説明会は、7 月 13 日～8 月 7 日の期間に計 41 回実施した。参加者数の総計は 226 名であり、うち 152 名から事後アンケートの回答が得られた。アンケート結果より、説明会の実施時期や時間帯、内容について肯定的な回答が 9 割以上であり、実施方法や参加定員の設定についても適切性が示唆された。

キーワード：入試広報、オンライン、入試説明会、高校教員

1 はじめに

東北大学では、主な入試広報活動として、高校教員を対象とした入試説明会や高校訪問、受験生および保護者を対象とした進学説明会・相談会等を毎年実施してきた(倉元, 2020:49)。しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大を受けて、参加者を募って対面で行うような例年通りの入試広報活動は中止することに決定した。その代替として、オンラインを活用した入試広報活動を実施すべく、全学的な委員会である入試企画・広報委員会の下に、著者ら 4 名から成るオンライン広報作業部会が新年度開始直後に組織された。今年度取り組んだオンラインによる入試広報活動には、「オンライン入試説明会」、「オンライン進学説明会・相談会」、「オンラインオープンキャンパス」が含まれるが、本稿ではこのうち「オンライン入試説明会」について、企画から実施までのプロセス、および実施結果を報告する。

1.1 東北大学入試説明会とは

東北大学では、1999 年のアドミッションセンター¹⁾発足以来、高校教員を対象とした入試広報活動として入試説明会を実施している。入試説明会は、進路指導に携わる高校教員に対して、東北大学の入試に関する情報を丁寧に伝えると共に、進路指導の現場である高校からの声を直接拾い上げることにより、入試制度の改善に資することを目的として行われてきた。例年 5 月末から 7 月初旬にかけて、近年は全国 21 会場で実施しており、2019 年度は 366 校、557 名の参加があった。このように、入試説明会は東北大学と高校教員との間における入試に関する情報交換の貴重な場であり、コロナ禍においても継続が望まれる重要な入試広報活動の 1 つであった。

2 「オンライン入試説明会」の実践概要

本年度当初より、オンライン広報作業部会のメンバーを中心として、オンライン入試説明会の実施方法に関する検討を重ねた。これまで全国 21 会場で対面で開催してきた東北大学入試説明会の内容を、オンラインでもできる限り踏襲することを基本方針とした。

2.1 実施時期の決定

はじめに、実施時期について検討した。前述のように、従来の入試説明会は、5 月末から 7 月初旬までの間に全国 21 会場で逐次的に開催されていた。本年度のオンライン入試説明会は、4 月初旬より計画を開始したが、当初、学内における入試関連の懸案事項も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により不確定な要素が多く、文部科学省や国立大学協会による 2021 年度入試に関する決定も、例年より遅れることが見込まれていた。しかし、このような状況下であっても、高校の先生方に可能な範囲で少しでも早く情報を届けたい、そして直接対話をすることで不安も軽減させられるのではないかと、という思いがあった。一方で、初めての試み故に綿密な計画を立て、ソフト・ハード両面での環境整備等、十分な準備期間を確保する必要があった。これらを勘案し、約 3 ヶ月の準備期間を設け、7 月 1 日から参加申込みを開始し、説明会は 7 月第 3 週以降の実施とする目標を立てた。

2.2 使用するビデオ会議システムの選定

Zoom, WebEx, Google Meet を候補とし、オンライン広報作業部会のメンバーで実際に使用し、それぞれのメリット、デメリットについて議論した。加えて、これまでの入試広報活動を通じて交流のあった全国のいくつかの高校から、ネットワーク環境や使用できるビデオ会議システムについてヒアリングを行った。そ

これらの結果を踏まえ、全国の高校への普及状況と、画面共有機能やスケジューリング機能等のユーザビリティの観点から、ビデオ会議アプリ Zoom を使用することとした。

2.3 説明会の構成

従来の入試説明会は、本学入試センター教員による東北大学全体の説明と入試に関する説明、参加者を交えた質疑応答を合わせて 90 分で構成されていた。オンライン入試説明会では、参加者の時間的拘束を最小限にすることを目的に、入試説明と質疑応答のみとし、60 分で実施することとした。大学説明については、オンライン入試説明会と並行して企画し、6 月 1 日時点で公開されていた、オンライン進学説明会・相談会のサイトで視聴できる動画を紹介することにした。

実施時間帯の検討に当たって、どのような時間帯が参加しやすいか、元高校教員である本学特任教授の意見を聴取した。概ね授業時間を終えて、かつ勤務時間内に収まる時間帯として、15:30-16:30 が有力であった。この時間帯をメインに、地域や高校によって時間割や勤務時間に違いがあることを考慮し、A. 13:00-14:00, B. 14:15-15:15, C. 15:30-16:30, D. 16:45-17:45 のいずれかの時間帯に設定することを決定した。

2.4 実施方法とスケジュール

2.4.1 ブロックとセッション数

従来の入試説明会では、地域によって受験生の志願傾向や入試広報に求められる情報が異なることを考慮して、当該地域の実情とニーズに合致するよう全国 21 会場それぞれで内容を少しずつ変更していた。このことから、オンライン入試説明会も全国を地域ごとにブロック分けして実施することにした。これまでの入試説明会における開催回数や来場者数等の実績、および全国高等学校総合体育大会のブロック区分（全国高等学校体育連盟、n.d.）を参考に、全国を 11 ブロックに分け、勤務校が所在するブロックの説明会に申し込んでもらうこととした。

オンライン入試説明会では、1 回の説明会をセッションと呼び、回線負荷や Zoom 画面上での視認性、質疑応答における双方向コミュニケーションの限界を考慮して、1 回のセッションにおける募集定員を 20 名とした。その上で、2020 年度入試における都道府県別出願校数を参考に各ブロックでの開催回数（セッション数）を決定した。セッション数の決定においては、早期に定員上限に達したことを理由に申込みできない参加希望者が生じないことを最重要と考え、余裕を持た

表 1 ブロックとセッション数

ブロック	都道府県	セッション数
北海道	北海道	2
北東北	青森県, 秋田県, 岩手県	4
宮城	宮城県	6
南東北	山形県, 福島県	3
北関東	茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県	4
南関東	東京都, 千葉県, 神奈川県, 山梨県	4
北信越	新潟県, 長野県, 富山県, 石川県, 福井県	3
東海	静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県	3
近畿	滋賀県, 京都府, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 和歌山県	2
中国四国	鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県, 徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県	1
九州沖縄	福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県	1

せた定員上限となるよう配慮した。また、できるだけ多くの高校からの参加機会を確保するため、同一高校からの申込み可能人数は、1 回のセッションにつき 2 名（2 回線）までに制限した。ただし、申込者の端末を複数名の教員で視聴することは許容した。ブロック区分および各ブロックのセッション数を表 1 に示した。

2.4.2 実施スケジュール

オンライン入試説明会を担当する本学入試センター教員は 9 名であった。ブロック区分とセッション数が確定した段階で、ブロックごとに担当者を 3~4 名ずつ、オンライン広報作業部会メンバーが少なくとも 1 名含まれるように割り振った。オンライン入試説明会の開始日は 7 月 13 日とし、(1) 担当ブロック内で 1 回のセッションにつき主担当と副担当の 2 名を配置し、いずれかはオンライン作業部会のメンバーとする、(2) 1 日に実施するセッションの上限は 3 とする、という 2 つの条件の下、説明会の実施スケジュールを確定した。

オンライン入試説明会の実施スケジュールを表 2 に示した。なお、ブロックの全国という表記は、全国どのブロックからでも参加可能なセッションであり、7 月 20 日付で追加したものである。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、例年 6 月に発表される国立大学協会による入学者選抜についての実施要領の発表が 7 月 13 日となったため、説明会開始時点

で本学の入学者選抜要項の 2021 年度版はまだ作成途中であり、7 月中の公表予定となっていた。そこで、全国を対象とした 8 回のセッションを 8 月開催で追加し、計 41 セッションを実施した。

2.4.3 参加申込み

オンライン入試説明会のサイト（東北大学入試センター、2020）を作成し、参加希望者にはそのサイトを經由して、申込みフォームにより事前に参加申込みを行ってもらった。サイトは 7 月 1 日にオープンし、同時に参加申込みの受付を開始した。申込みフォームは、株式会社フロムページが提供する OCANs²⁾ を利用し、申込み期限は各セッションの前日の 17 時までとした。申込みの際、セッションの録音、録画及び無断転載、配信を禁止する旨、校内への配信等によって不特定多数の教員あるいは生徒が視聴することは認めない旨を明示し、これに同意しないと参加申込みが完了しないように設定した。周知の方法としては、過去 5 年間の出願高校と国立大学附属高校合わせて 1,443 校に案内状を郵送したことに加え、入試センターの教員が連絡先を既知の高校教員に対しては、メールや FAX を直接送付した。

2.5 テストセッションの実施

実施者と参加者の双方で、参加申込みから説明会までの流れを実践を通して最終確認するため、あらかじめ交流のあった全国の高校教員に参加依頼をし、6 月 31 日にテストセッションを実施した。テストセッションの参加者は、入試センターの教員 9 名と、高校教員 25 名であった。

2.6 説明会における役割分担の決定

オンライン作業部会のメンバーのうち、申込みシステム OCANs の管理者権限を持つ 2 名を SE 担当とし、全てのセッションをこの 2 名で分担して、申込者名簿の作成と事前配布資料のアップロードを行った。申込者名簿は各セッションの 3 日前の暫定版と、前日の申込み締め切り後の確定版の 2 回作成し、それぞれ当該セッションの担当者にメールで送付した。事前配布資料は、前日までにアップロードし、参加者には当日午前中にダウンロードしてもらった。

各セッションの担当者 2 名のうち、オンライン作業部会のメンバーは、Zoom でのミーティングの事前のスケジュールリングと当日のミーティング開始を担当した。テストセッションでの経験をもとに、2 名のセッション担当者の役割を明確にし、主担当の役割は、説

表 2 実施日程および申込者数、参加者数

月日 (曜日)	時間	ブロック	申込者数	参加者数
7/13(月)	C	宮城 ①	7	7
7/13(月)	C	北関東 ①	3	2
7/14(火)	C	南関東 ①	5	4
7/14(火)	C	九州沖縄 ①	2	1
7/14(火)	D	北海道 ①	2	2
7/15(水)	C	東海 ①	0	0
7/15(水)	C	中国四国 ①	16	12
7/15(水)	D	南東北 ①	9	9
7/16(木)	A	北東北 ①	15	12
7/16(木)	C	北信越 ①	3	3
7/16(木)	C	近畿 ①	5	4
7/17(金)	C	宮城 ②	5	5
7/17(金)	C	南関東 ②	7	5
7/20(月)	C	東海 ②	8	7
7/21(火)	C	北東北 ②	5	5
7/21(火)	C	南関東 ③	16	12
7/21(火)	C	北信越 ②	1	1
7/22(水)	C	宮城 ③	1	1
7/22(水)	C	南東北 ②	7	7
7/22(水)	C	北関東 ②	11	7
7/27(月)	C	南東北 ③	6	6
7/27(月)	C	北関東 ③	11	8
7/28(火)	C	北東北 ③	9	9
7/28(火)	C	北信越 ③	11	9
7/28(火)	C	東海 ③	9	8
7/29(水)	C	南関東 ④	15	12
7/29(水)	C	近畿 ②	5	4
7/30(木)	C	北海道 ②	8	7
7/30(木)	C	宮城 ④	5	5
7/30(木)	C	北関東 ④	8	7
7/31(金)	C	北東北 ④	9	8
8/3(月)	C	宮城 ⑤	6	5
8/3(月)	D	全国 ①	9	6
8/4(火)	A	全国 ②	9	5
8/4(火)	C	全国 ③	3	3
8/5(水)	C	全国 ④	0	0
8/5(水)	D	全国 ⑤	2	1
8/6(木)	A	全国 ⑥	3	2
8/6(木)	C	宮城 ⑥	6	5
8/7(金)	B	全国 ⑦	6	5
8/7(金)	C	全国 ⑧	5	5

注) 同一ブロックで複数回のセッションを開催した場合には、開催時期の早い順に囲み数字で示した。

明資料の作成、当日の司会進行、入試説明および質疑応答、実施記録の作成とした。副担当の役割は、主として Zoom ミーティング内での参加者の管理とし、質疑応答では必要に応じて主担当のサポートをすることとした。

2.7 事後アンケート

オンライン入試説明会の参加者には、事後アンケートの回答を依頼した。項目は表3の通りとし、加えて、任意で氏名および高校の所在地、高校名の回答を求めた。なお、Q3以降は昨年度までの入試説明会で用いていたアンケートと同じである。

表3 事後アンケートの項目

Q1	参加した説明会のブロックを選択してください。【必須】 「北海道」、「北東北」、「宮城」、「南東北」、「北関東」、「南関東」、「北信越」、「東海」、「近畿」、「中国四国」、「九州沖縄」、「その他」より選択
Q2	参加した説明会のセッション番号を選択してください。【必須】 「セッション①」、「セッション②」、「セッション③」、「セッション④」、「セッション⑤」、「セッション⑥」、「セッション⑦」、「セッション⑧」より選択
Q3	説明会の時期についてはいかがでしたか？【任意】 「1. ちょうど良い時期である」、「2. 早すぎる（いつ頃が最適か）」、「3. 遅すぎる（いつ頃が最適か）」から選択
Q4	曜日・日時設定についてはいかがでしたか？【任意】 「1. 特段の不都合はなかった」、「2. 参加しにくい時間設定だ（どのような曜日・時間設定が最適か）」から選択
Q5	説明会の内容について伺います。東北大学のAO入試等について、十分な情報が得られましたか？【任意】 「1. よくわかった」、「2. 大体わかった」、「3. 情報が不十分だ（どのような情報が不足していたか）」から選択
Q6	配布資料についてはいかがでしたか？【任意】 「1. 十分な内容だ」、「2. 多すぎる（どのような資料が余分か）」、「3. 足りない（どのような資料が不足か）」から選択
Q7	説明の進め方、プレゼンテーション等はいかがでしたか？【任意】 「1. わかりやすかった」、「2. わかりにくかった（どのところがわかりにくかったか）」から選択
Q8	その他、ご要望、お気づきのことがあればお聞かせください【任意】 自由記述形式

3 「オンライン入試説明会」実施後の評価

3.1 申込者数と参加者数

セッションごとの申込者数と参加者数を表2に示した。東海ブロックのセッション①と全国のセッション④は、申込者が0名であったため、実際に開催されたセッションは39回であった。申込者数の総計は273名、参加者数の総計は194校から226名であり、申込者数に占める参加者数の割合（参加率）は82.8%であった。前述のように昨年度の入試説明会の参加者数は557名であったが、このうち232名が仙台会場への参加者であった。仙台会場では、入試センター教員だけ

表4 ブロック別の申込者数、参加者数、志願者数

ブロック	申込者数	充足率	参加者数	参加率	志願者数
北海道	10	25.0%	9	90.0%	198
北東北	38	47.5%	34	89.5%	930
宮城	30	25.0%	28	93.3%	1236
南東北	22	36.7%	22	100.0%	566
北関東	33	41.3%	24	72.7%	1450
南関東	43	53.8%	33	76.7%	1668
北信越	15	25.0%	13	86.7%	620
東海	17	28.3%	15	88.2%	464
近畿	10	25.0%	8	80.0%	357
中国四国	16	80.0%	12	75.0%	159
九州沖縄	2	10.0%	1	50.0%	113
全国	37	23.1%	27	73.0%	-

注) 充足率は、ブロックごとのセッション数×20(=1セッションの募集定員)に占める申込者数の割合である。志願者数は、2020年度入試の数値である。

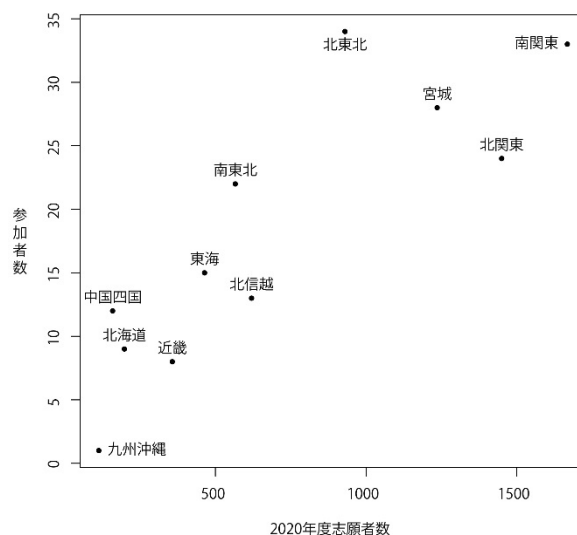


図1 志願者数と参加者数の散布図

でなく各学部の教員も参加して個別の入試解説も行っていることから、例年全参加者数の約4割を占める。仙台会場への参加者の集中を考慮すると、従来の入試説明会に比較してオンライン入試説明会の参加者数が極端に少なかったとは言えないだろう。

表4では、ブロックごとに申込者数と参加者数をまとめ、各ブロックに該当する地域ごとの2020年度入試における志願者数を併せて示した。ブロックごとに、募集定員の上限に占める申込者数の割合、および申込者数に占める参加者数の割合を算出し、それぞれ充足率、参加率とした。

また、全国対象の追加セッションを除く11ブロックに関する、2020年度入試における志願者数と、オンライン入試説明会への参加者数との散布図が図1であ

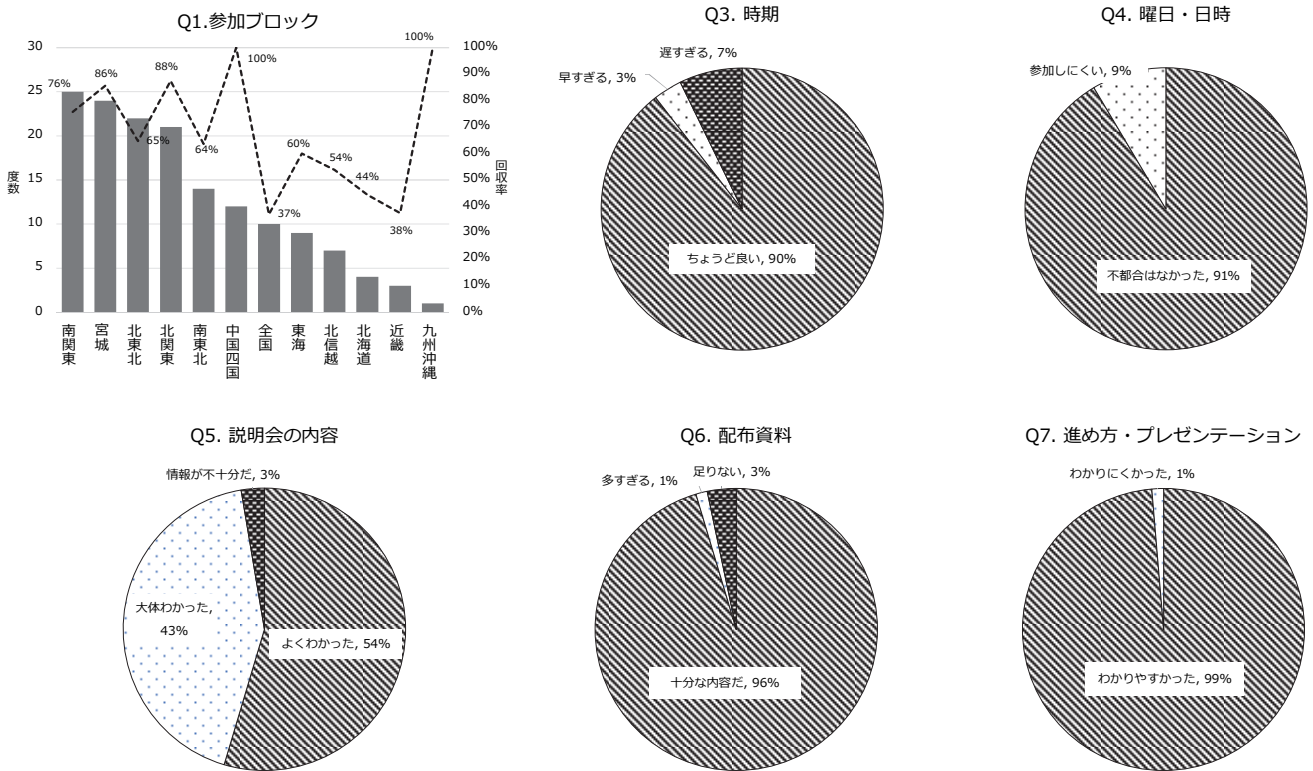


図 2 事後アンケートの回答結果

る。志願者数の多かったブロックほど、オンライン入試説明会への参加者数も多い傾向が見られ、スパイマンの順位相関係数は 0.87 ($p < .001$)、ケンドールの順位相関係数は 0.67 ($p < .01$) であった。

3.2 事後アンケートの結果

事後アンケートへの回答者数は 152 名であり、参加者数の総計 (226 名) に対する回収率は 67.3% であった。Q1, Q3, Q4, Q5, Q6, Q7 の回答結果を図 2 に示した。Q1 の棒グラフは、回答者が参加したブロックごとの人数を表している。併せて、ブロックごとの回収率も示した。近畿ブロックおよび全国を対象に追加したセッションでは回収率が 40% を下回っていたものの、表 4 に照らして、ブロックごとの参加者数の多寡と回答者数は概ね同様の傾向を示しており、回答者が特定のブロックに偏ってはいない。

Q3 の時期に関しては、「ちょうど良い時期である」という回答が 90% であった。「早すぎる」の理由としては、募集要項や入学者選抜要項がまだ発表されていない時点で説明会を開始したことを指摘する意見がほとんどであった。一方、「遅すぎる」を選択した回答者からは、例年のように 6 月から 7 月上旬までを希望する声が多かった。

Q4 の曜日・日時設定について、A. 13:00-14:00, B. 14:15-15:15, C. 15:30-16:30, D. 16:45-17:45 の 4 つの時間帯を候補としていたが、多くのセッションが C の時間帯で設定されていた。「参加しにくい時間設定だ」を選択した回答者のほとんどが、平日 16 時以降のより遅い時間帯や土曜日を希望していた。

説明会の内容について、十分な情報が得られたかという Q5 への回答は、「よくわかった」と「大体わかった」を合わせて 97% であった。「情報が不十分だ」を選択した回答者は、入学者選抜要項の発表前で、不確かな情報が多かったことに不満を抱いていたようだ。

Q6 の配布資料について「多すぎる」を選択した回答者は、具体的に「令和 3 年度大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等」や「入学試験成績通知見本」を挙げていた。一方で、「足りない」と回答した参加者からは、当日のみ提示した資料についても欲しかった、という意見や、そもそも事前配布資料のダウンロード方法がわからなかった、という記述が見られた。

説明の進め方およびプレゼンテーション等に関する Q7 では、99% が「わかりやすかった」という回答であった。「わかりにくかった」の理由としては、音声小さかったという意見があった。

Q8 の自由記述項目の回答をいくつか抜粋し、表 5

表5 事後アンケートの自由記述結果（抜粋）

<p>1. オンライン開催に関する好意的なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オンラインの説明会は参加しやすいので、新型コロナウイルスが収束した後も開催して頂けると助かります。 ●遠方に出張せずとも、説明会に参加できて、会場への移動時間や時間割変更処理などの労力が大幅に省けました。 <p>2. 内容に関するコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●時期に関して、来年度は新型コロナウイルス感染症の影響がなければ6月～7月の開催を望みたい。 ●学部からの説明がないのは仕方のないことですが、少々残念でした。 <p>3. 操作上の躓きに関するコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●資料を上げているページが分からなかった。 ●Zoomに入る方法について、「スワイプする」となっていました。本校配付のパソコンではそのような機能がなくて入れないため右往左往しました。
--

に示した。他には、使用した校務用PCにカメラ、あるいはマイクがなく、映像や音声の出力ができなかったといった記述も複数見られた。

3.3 今後の課題

3.3.1 ブロック区分・セッション数・参加定員

従来入試説明会と同様に、主担当は各ブロックの地域性に配慮して説明資料を作成しており、地域ごとにブロック分けをして実施したことについては、アンケートの自由記述でも否定的な意見はなかった。各セッションの参加者は最大で12名であったが、Zoom上できめ細やかな対応が可能なのは10名程度が限界であるという声が多くの実施担当者から聞かれた。アンケートでは、少人数だからこそ質問がしやすかったという意見もあった。今回20名とした1セッションの募集定員の妥当性については議論の余地が残るが、表4に示した通り各ブロックの定員上限に対する充足率は最大で80.0%であり、申込者が殺到して希望するセッションに申込みないという事態を回避できたという意味では、適切な参加定員の設定だったと言える。

3.3.2 実施時期・実施時間帯

事後アンケートでは、開催時期(Q3)や曜日・日時(Q4)に関しては肯定的な回答が90%以上であったが、例年通り6月、7月の実施を望む声も一定数あった。オンライン入試説明会の実施を例年通り5月下旬

の開始とできなかった理由の1つとして、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、入学者選抜要項の発表が遅れていたことが挙げられる。このような状況にあってもできるだけ早く全国の高校教員と情報を交換する場を設けたいという思いから7月13日の開始としたが、入学者選抜要項の発表が7月末日になったことで、7月中のセッションでは提供できる入試情報が限定的となってしまった。アンケートではその事情を汲んだ温かいコメントもあった一方で、選抜要項発表前の説明会開始は早すぎたのではという意見も目立った。

参加人数が極端に少なかったブロックおよびセッションについては、実施日程や時間帯に要因があったのか今後検討していきたい。また、アンケートは参加者のみからの回答であり選択バイアスが生じているため、来年度以降の実施に当たっては、参加できなかった教員の意見も収集して、実施時期と時間帯を決定する必要があるだろう。

3.3.3 説明会の内容と使用したシステム

事後アンケートのQ5～Q7の結果より、説明会の内容に対しては、9割以上が好意的な意見であった。仙台会場への参加経験がある高校教員からは学部からの説明を希望する声もあり、来年度以降の実施では内容構成についても検討する必要性が示唆された。1回のセッションの所要時間を従来の90分から60分に減らしたが、特に不満の声はなく、1時間でポイントをおさえた説明だったというコメントも見られた。

Q8の自由記述では、ビデオ会議システムZoomや申込みシステムOCANsの操作で躓いたという記述が散見された。この点については、操作方法等を詳細に解説した資料をあらかじめ掲載しており、本来、これらの資料に目を通すことで解決できる問題であったと考える。インターネットの接続状況やPCのスペック等、参加者側の環境に依存する問題もあったが、これらに対処することは不可能である。

4 結語

倉元(2007)では、東北大学入試説明会の“全国展開は、資金、人員、時間、労働力の面で不可能である”とされていたが、オンラインの活用がそれを実現する1つの方法となり得ることが示された。今回の参加者からは、アクセシビリティや移動時間の削減等、オンラインならではのメリットに言及するコメントも得られた。東北大学入試センターでは今年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大をきっかけに入試広報のオ

ンライン化に取り組んだが、今後日本国内のみならず海外を含めボーダレスかつインクルーシブな入試広報を展開していくためには、ポストコロナにおいてもオンラインの活用を1つの選択肢として、対面での広報活動と併せて実施していく必要がある。対面とオンラインそれぞれのメリットとデメリットを整理し、それらの使い分けやバランスについて引き続き検討していきたい。

注

- 1) 入試センターの前身
- 2) OCAAns (オーキャンズ) は、株式会社フロムページが提供するプログラム管理システムの商品名である。開催日・時刻の異なる複数のイベントを設定し、それぞれに定員や申込み締切等の柔軟な設定が可能であり、Zoom との連携も容易である。イベントへの参加者は、申込みフォームを介したオンライン上での事前申込みから、Zoom による当日の参加までスムーズに行うことができる。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP20K20421 の助成を受けた研究成果の一部である。

参考文献

- 倉元直樹 (2007). 「入試広報戦略のための基礎研究(1) 一過去 10 年の東北大学入試データから描く『日本地図』一」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』 2, 9-22.
- 倉元直樹 (2020). 「『大学入試学』の展開 一東北大学におけるアドミッションセンターの構想(転換期)一」倉元直樹編『『大学入試学』の誕生』金子書房, 48-57.
- 東北大学入試センター (2020). 「東北大学オンライン入試説明会」東北大学入試センター http://www.tnc.tohoku.ac.jp/online-nyushi_setsumei/ (2020 年 11 月 25 日).
- 全国高等学校体育連盟 (n.d.). 「全国高等学校総合体育大会開催基準要項」全国高等学校体育連盟 https://zen-koutairen.com/pdf/kaisai_re.pdf (2020 年 11 月 25 日).